論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　学　術　）	氏名	来間　千晶
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目

競技中における「気持ちが切れた」および「気持ちが切れなかった」現象に関する質的・量的研究

論文審査担当者

主　　査　　教　授　　関矢　寛史
審査委員　　教　授　　船瀬　広三
審査委員　　教　授　　坂田　桐子

〔論文審査の要旨〕

スポーツの競技者は，競技中の心理状態を「気持ちが切れた」,「気持ちが切れなかった」と頻繁に表現する。本論文は，そのように表現される現象の構成要素と発現機序，ならびに気持ちが切れることの防止要因を明らかにすることを目的とした。

本論文は6章から成る。第1章では，先行研究のレビューに続き，心理状態を専門用語ではなく気持ちが切れた,切れなかったと表現する理由と,それらの表現の内容を理解することが,競技者の心理サポートにおいて役立つという研究の意義を述べた。また，本研究の目的のためには仮説を立てずに競技者の発話内容を帰納的に分析する質的研究と,抽出された仮説を演繹的に検証する量的研究を組み合わせた混合研究法を用いる必要性について述べた。

第2章では，気持ちが切れた現象に関する研究1について記した。14名に半構造化面接を行い，発話データを質的分析によってカテゴリー化した結果，原因によって，低モチベーション型，対戦相手影響型，戦況影響型，想定外型の4つに類型化された。そして気持ちが切れたという表現は，モチベーションの低下，集中力の低下，身体的疲労感・不調感の増加が複合的に起こる現象を一言で表現するために使用されることが明らかとなった。

第3章では，気持ちが切れた現象と切れなかった現象を質的分析によって比較した研究2について記した。18名の発話データをカテゴリー化し，気持ちが切れた現象と切れなかった現象の比較から，競技前の高いモチベーション，他者のポジティブな言動，戦意の維持，思考の転換，戦況の好転，体力の残存が，切れることの防止要因であることを示した。

第4章では,気持ちが切れている心理状態を量的分析によって類型化した研究3について記した。343名に心理状態を問う質問紙に回答させ，探索的因子分析を行った結果，闘争心・勝利意欲の低下，自信喪失・不安，プレーへのネガティブ感情の3因子が見つかり，因子得点をクラスター分析にかけた結果，これらの全ての心理状態が発現した群，闘争心・勝利意欲の低下のみが発現した群，いずれも発現しなかった群の3つに分類された。

第5章では，気持ちが切れた，もしくは切れなかった現象の発現機序を量的に分析した研究4について記した。切れた経験を持つ282名と切れなかった経験を持つ287名に質問紙に回答させ，探索的因子分析によって各現象の構成要素を明らかにし，クラスター分析によって切れ

ている状態と切れそうな状態ごとに類型化を行った。その結果，切れた現象では，好調悪化型，最初から切れていた型，やる気なし・余裕型の 3 つ，切れなかった現象では，ネガティブでもやる気型，あまり切れそうにならなかった型，開き直り型の 3 つに分類された。さらにクラスターごとに因子得点を観測変数とするパス解析を行い，気持ちが切れる過程，切れそうになるが切れない過程について詳細に記述した。

第 6 章では，研究 1 から 4 までの結果に基づく総合考察を記した。気持ちが切れた現象，切れなかった現象には，心理状態によってそれぞれ 3 つの類型があることが明らかとなった。そして気持ちを切らさないためには，競技前から高いモチベーションを持つこと，切れそうになった際の認知再構成のスキルやチームメイトなどの他者の言動が重要であることなどが示された。本研究は競技者が用いる言葉の内容を詳細に明らかにした点において独創性があり，専門用語との関係を明らかにすることによって心理サポートに役立つ提言を示した点においても価値あるものである。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。